

第 49 回（令和 2 年度）全国豆類経営改善共励会  
受賞者（東海農政局管内）概要

日本豆類協会理事長賞

<大豆 家族経営の部>

うの みつひろ  
宇野 充浩（三重県伊勢市）

品種名	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	労働時間 (時間/10a)	農業経営費 (円/10a)	上位等級比率 (%)
フクユタカ	20.4	135	4.1	39,442	91.4

平成 27 年から大豆生産を開始し、現在は水稻-小麦-大豆の 2 年 3 作体系による営農を行っている（水稻 25.5ha、小麦 21.4ha、大豆 20.4ha）。

直近 2 年間で大豆の作付面積を 10.2ha（平成 30 年）から 20.4ha（令和 2 年）に拡大し、順調に規模拡大を進めるとともに、生産技術の改善に積極的取り組み、安定的に高品質な大豆生産を実現している。

また、JA 伊勢管内で設立した大豆生産者グループの代表者として、県農業試験場、普及機関、地元 JA 等関係機関と連携して栽培技術の改善に努め、産地において面積拡大、高品質・高収量生産を実現するけん引役として、地域農業に貢献している。

【生産技術改善への取組】

- 適期播種に努めるとともに、倒伏を軽減させる中耕培土栽培を基本としつつ、天候の影響による播種遅れには狭畦密植栽培を選択するなど、状況に応じた適切な栽培を行うことで収量を確保している。
- 排水対策として、額縁明きよに加え、県が進めるチゼルプラウによる深耕体系にいち早く取り組むとともに、土壌診断に基づく適切な土壌改良により地力の維持を図っており、令和 2 年産では、近年単収が低迷している三重県において、県平均単収（70kg/10a）を大きく上回る単収 135kg/10a を確保している。
- 難防除雑草の適切な防除に努め、汚粒の発生を低減するなど適正なほ場管理により、直近 2 年間ににおいては 2 等級以上の上位等級比率 9 割以上を確保し、実需者ニーズに対応した高品質な大豆生産を行っている。

【経営改善への取組】

- 地域の耕作放棄地の解消に積極的に協力しながら規模拡大を進めるとともに、ほ場の集約、合筆を進め、作業効率の向上を図っている。
- ドローンの導入等による作業の省力化、栽培管理システム（KSAS）を活用した効率的なほ場管理や生産履歴等の管理による「作業の見える化」を進め、生産コストの低減、経営の安定化を進めている。